

## テーマ:東アジア、中国語圏の社会と文化を文字・映像などから考察する

### 【授業の主旨・目標】

本演習では、中国・台湾のみならず、東アジア地域、中国語話者の居住する広義の中国語圏の文学、映画、ドラマ、写真、ファッション、流行音楽などを通して、それを産み出した社会と文化について考えます。また、2年までの演習科目で学んだ、テーマの発見、資料の読解、調査と分析、報告といった研究スキルを実践的に復習し、卒業論文の執筆に備えます。

ちなみに私は、これまで中国近現代文学を学んできました。なかでも1980年代以降の文学作品、作家の組織や文学賞といった文学を産み出す制度に関心を持っています。ですがこの授業では、文学のみを対象にするのではありません。人間が自らの眼で見て、頭で考えてイメージしたことを、映画や音楽、ファッションなどさまざまな形で再現しようとしたもの(表象文化と言うこともあります)について調べたり、考えたり、それが一体どういうことなのか他の人に説明したい人ならどなたでも大歓迎です。

また、中国語のさらなるスキルアップをはかり、中国語で学ぶことに熱く挑戦したい人もお待ちしております。可能な限りサポートします。でも、中国語の学習歴がなくても全然構いません。

### 【授業計画・方針】

春学期には、東アジア地域、中国語圏の現代文化についての概説書やブックガイドなどを輪読して、この地域の文化や社会について幅広く知識を増やしていきましょう。その中で自分の関心が持てるテーマをだんだんと絞っていきましょう。全く焦る必要はありません。「面白い、感動した」が入り口です。理論だけでなく、たくさんの作品にも触れることが大切です。秋学期には、自らが選んだテーマについて発表し、参加者どうしで議論を重ね、より深く理解し考えて行きましょう。そして、卒業研究のために計画を立て、必要な作業を進められるよう指導します。

### 【こんな人、お待ちしております】

- ・資料(文字／映像ほか)に触れるのが好きな人
- ・他の受講生とともに積極的にゼミの活動に関われる人
- ・人の話をよく聞き、自分の意見をはっきり伝えようと努力できる人

### 【教科書・参考文献】

受講者の要望や必要に応じて指定します。近年では、岡本隆司『中国の論理』(中公新書、2016)、大東和重『台湾の歴史と文化』(中公新書、2020)、赤松美和子『台湾を知るための72章』(明石書店、2022)を読みました。

### 【面談希望者へのお願い】

・基本的に対面で面談します。面談希望者は必ずメール [twada@isc.chubu.ac.jp] にて予約を取ってください。遅くとも24時間以内には返信いたします。

・メール本文には、以下の項目について記入してください。

- ① 学籍番号+氏名、②面談希望日時、③本ゼミ志望の理由(400字以内)、④ゼミで取り組んでみたいこと(400字以内)、⑤その他(Zoom面談、1対1の面談を希望する場合など)